



岡崎市民病院 だより

第7号

平成17年10月11日発行

看護局長に就任して

看護局長 目黒 妙子



このたび、私は岡崎市民病院看護局長を5月1日付
けで拝命致しました。前任者同様ご指導とご支援を賜
りますようお願い申し上げます。

月日が経つのは早いもので、6ヶ月目になってしまいま
した。予想外の任務に、総務・人事担当業務を5ヶ月間
継続していた為、看護局長としての役割を十分果たせ
ていない自分に焦りを感じております。看護局は病院の
中で600名程度の職員を抱える一番大きな組織です。
病院の職員と市民の皆様から、色々なご意見を伺いな
がらご協力頂き、看護局長の役割を果たして行きたい
と思います。

私達看護職員は、平林新院長の方針に基づいて色々
検討し、市民病院をより市民に信頼される病院にして
いかなければならないと考えています。

今年度の看護局の方針は、次のような内容で実践し
ています。

- 看護理念 患者様に愛情と責任をもって看護する。
- 目 標 1) 患者様のプライバシーと権利を尊重する。
2) 患者様の安全・安楽を守る。
- 具体的には ① 医療事故を防止し、患者様の信頼度
を高める。
② 新人指導育成システムを実践し、人材
育成に努める。
③ 接遇を良くし、患者様の満足度を高める。

新採用者は、大分仕事に慣れて参りましたが、まだま
だ未熟です。一人前の看護師に成長するには3年の月
日が必要です。患者様に安全で良質な医療と看護を
提供し、満足して頂く為に全員で協力して、新人指導
や学習会を行いながら頑張っています。

私達が安全で良質の看護を提供させて頂く為には、
一定の人員と市民の皆様のご協力が必要です。少子・
高齢化が進んでいる現在、看護師の産休・育休者数も
年々増加の傾向にあります。子供が生まれると色々な
問題が起こりますが、夜勤ができない等の理由で、退職
することなく、家族や地域の協力を得ながら、仕事を続
けられるようにご支援下さい。

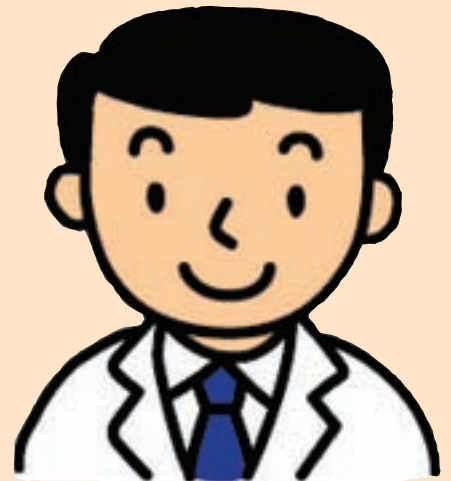
個人情報保護法により、病棟では基本的に患者様
の情報をお答えできない事になっています。患者様に
ご面会される方は、玄関前の案内にフルネームでお訪
ねの後、入院病棟にお上がり下さるようお願いします。

看護局は、組織の中での報告・連絡・相談を特に重
要視しており、団結力も強いと思います。今後も患者様
から信頼され、期待される病院にする為に全員が努力
したいと思いますので、宜しくお願い致します。



緩和ケア
(緩和医療)

ってなに？



緩和ケア（緩和医療）

緩和ケアとは、治癒が望めなくなった患者さんに対する積極的な全人的ケアのことをいいます。たとえば進行した癌の場合に、患者さんの持っている苦痛を和らげ、患者さんのQOL（生命の質）を出来るだけ高く保つことを緩和ケアでは目標にします。ともすれば治癒を目指した治療のみが中心になっていた近代医学・西洋医学への反省が緩和医療の基礎となっています。患者さんの苦痛には身体的なものだけではなく、精神的、社会的、霊的と呼ばれる苦痛が含まれます。これらの苦痛を少しでも少なくするケア（全人的ケア）が重要になってくるわけです。

緩和ケアではチーム医療が重視されています。医師、看護師、ソーシャルワーカー、薬剤師、栄養士、ボランティアの方々など、多くの人のチームワークが大切であるとされています。

このようなケアを中心に行う施設として、ホスピスや緩和ケア病棟が日本でも増えつつありますが、これらの施設でなければ緩和ケアが行えないというわけではありません。「患者さんのQOLを重視する全人的なケア」という考え方が全ての医療において重要であることは言うまでもありません。



4階北病棟

岡崎市民病院の小児病棟には院内学級が併設されています。院内学級は1ヵ月以上の入院が必要な患児を対象に根石小学校と甲山中学校の先生により授業が行われます。義務教育時の子どもにとって学校は生活のリズムを整え、学習能力の向上はもちろんのこと、社会性を身につけるためにも必要な生活の一部です。患児たちは院内学級で授業を受けることにより入院生活にメリハリをつけ、学校の授業からの遅れを取り戻す手助けになります。また、学級人数が少なく年齢の違った小児と一緒に授業を受けるため、個別的な学習能力に合った勉強の促進ができ、他の学年の児とのコミュニケーションをとるよい機会となります。院内学級では人数による制限や、スケジュールによる規制がないために、余裕ある学習内容で、学校では体験できない学習を受けることができるという院内学級独自のメリットがあります。そのためか、授業を受けることを拒む患児はほとんどなく、授業時間がくるのを待っている状態で、授業時間

になると自ら教室へ足を運び、授業が始まるのを楽しみにしています。病棟の廊下には授業で作った患児たちの絵画などの作品が数多く並べられています。長期の入院生活を送っている患児たちにとって、治療ばかりの入院生活の中、院内学級で学んだことは、退院した後も良い思い出となることと思います。



周産期センターNICU

当院NICU(新生児集中治療室)では、低出生体重児(2,500g未満で出生した赤ちゃん)早産児(妊娠37週未満で出生した赤ちゃん)をはじめとする新生児医療に携わり、日々新生児の救命・治療・看護に、医師・看護師が一丸となって取り組んでいます。また、母子分離が長期にわたることも少ないNICUの児に対し、退院後も良好な親子関係が築けるように、児とその家族に対する「心のケア」にも力を入れています。新生児医療の現場は、いわば人生のスタートラインに関する場所であり、医療・看護にあたるNICUスタッフの責任は重大と実感しています。赤ちゃんがスクスク育つよう願いを込めて看護を行っています。

周産期センター母性「母子同室をはじめました」

周産期センター母性病棟では、平成17年1月より母子同室をはじめました。出産後すぐに母子同室を行うと赤ちゃんの生活リズムがわかり、育児に早く慣れることができることで、退院後への不安が少ないとお母様方に好評です。赤ちゃんも自分の要求にすぐ応えてもらえるため泣くことが少なく情緒的に安定するようです。反面、授乳が頻繁になるためお母様方は疲れています。面会はできるだけ短時間とし、母子を休ませてあげてください。

1. 循環器科とは

心臓と血管の疾患（脳血管を除く）の検査・診断および治療（経皮的冠動脈造影等を含む）をおこなう科で以下のような症状、疾患が対象となっております。

胸が痛い、息苦しい、動悸がする、血圧が高い

心臓の病気

心筋梗塞、狭心症などの虚血性心疾患、不整脈、心臓弁膜症、心筋症、心不全など。

血管の病気

大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症、肺高血圧症、肺血栓塞栓症

血圧の病気

高血圧、低血圧（起立性低血圧など）



2. 循環器科の体制

循環器の疾患は心筋梗塞に代表されるように、時に救命に1分1秒を争う重大な病気を多く含みます。そこで、これらの疾患に敏速に対応できるよう、心臓血管外科と連携し、循環器系医師による当直を導入、急性心筋梗塞患者等の緊急を要する治療においても少しでも早く治療が開始できるよう24時間体制での診療治療を行っています。



3. 業務内容

外来診療では、かかりつけ医と連携を取りながら、無駄な待ち時間や同じ検査の繰り返しなどを省き、的確な医療を提供し、地域の皆様に安心できる医療を提供することをめざしています。

また、入院される病棟では、救急救命センターに入院される重症患者さんから一般病棟に入院される患者さんまで主治医を中心にチームで診療に当たっており、手術が必要な際には、心臓血管外科と綿密に連絡を取り、個々の患者に最適な治療を受けていただけるよう、最善を尽くしております。

検査、治療

心臓病の診断にかかせない心エコー検査を臨床検査室と共同で行い、心エコーの専任スタッフによる高度なエコー技術を診断治療に活用しているほか、運動負荷、心臓カテーテル検査治療を行っており、狭心症、心筋梗塞に対する冠動脈造影、経皮的冠動脈形成術、不整脈に対する心臓電気生理学的検査、心筋焼灼術（アブレーション）、不整脈、心不全に対するペースメーカー治療（両心室ペースメーカー移植術等）を行っております。



心臓リハビリテーション

リハビリというと骨折や、脳梗塞等の麻痺後のリハビリテーションを連想しますが、心臓についてもリハビリを行っております。日本国内ではまだまだ普及していませんが、狭心症、心筋梗塞、心臓バイパス術後、心不全の患者さんに有効な治療であることが証明されており、再発、再入院を最小限にするために心臓リハビリテーションを積極的に取り入れ心臓病の患者さんにより良い生活を提供できるよう心掛けております。



かかりつけ医との連携

厚生労働省は、病院と診療所がそれぞれの医療における特性を生かし、機能、役割を分担し連携して医療を行っていくことを推奨しており、病院と診療所の機能が効果的に活用され、診療所でも病院と同等以上の医療を受けていただけるよう、日頃より緊密な連携を培っておく必要があります。そのため当科では、岡崎市医師会と共催で勉強会を開催、医師会の先生方とコミュニケーションを図るとともに、患者さんに安心して地域医療を受けていただけるよう、地域の医療レベルの向上をめざしております。

第七回病院健康講演会開催される



梅雨の合間、太陽が照りつける暑い6月26日の日曜日午後に、市民病院講堂で「高齢者の膝の痛み」と題する市民病院健康講演会が開かれました。

膝が痛い、腫れる等の症状を示す膝関節疾患は整形外科ではよく扱う疾患です。市民病院健康講演会では整形外科領域の演題はとりわけ好評で、参加者が多い特徴があります。高齢化社会のために関節の痛み悩むことが多く、関節の痛みを克服して、より活動的な生活を希望される場合が多いからでしょう。一年半程前には、股関節疾患に関する講演会も行いましたが、200人以上の参加者がありました。膝の痛みを演題とした今回も予想通り約150人という多くの参加者でした。

当日は、最初に市民病院整形外科の杉浦昌医師より高齢となって膝がなぜ痛むか、そのメカニズムがわかりやすく説明されました。次いで看護師から人工関節置換手術の入院生活の実情、さらには理学療法士からはリハビリテーション療法の説明がありました。人間は誕生以来、多忙な日常生活を過ごす上で膝を酷使します。解剖学的には膝関節は上下の骨ばかりではなく、半月板（俗におさらと称されます）、複数のじん帯などで成立する実に巧妙かつ複雑な接合部です。たとえば馬などは、もっぱら脚を後方へ蹴る動作しか出来ないのに比較して、人間ではサッカー競技のように前方へ蹴るという高等な機能も持ち合わせます。加えて、直立歩行をする人間では全体重が左右の膝にかかり、年とともに骨の軟骨部分が磨耗します。その結果、高齢になると巧妙に作動してきた膝関節の障害で悩むことになります。膝の痛みを感じては、人生の晩年に旅行、スポーツや庭仕事などの楽しい趣味の生活を送ることは出来ません。膝関節疾患も最初のうちは、筋肉を鍛えるトレーニングなどで痛みを

ある程度カバーできますが、耐えられない状態へ来た時は人工関節を用いた置換手術になります。講演会の休憩時間には、治療について演者に直接質問をする熱心な参加者も見られました。当日の会場では、膝の痛みを軽減する目的の各種補助装具や手術で植え込む人工関節なども供覧されました。海外からの輸入品である人工関節は約100万円程度とのことですが、参加の方々は人工関節を手にとってその精巧な仕組みや値段に驚かれたようです。このように通常は接する機会のない医療器具をじっくり眺め、触れる機会があることもこの講演会が好評な理由の一つです。

この健康講演会では、多くの市民の方々の参加を頂いて日進月歩の進歩を遂げる医療の現況を知っていただきたいと思います。健康講演会の参加募集は市政だよりに掲載されますので、参加を希望される方は是非ご応募ください。次回は10月16日に行いテーマは「脳卒中の予防」を予定しています。





岡崎市民病院の 駐車スペースが増えました

外来患者さん及び一般来院者の利便性向上のために第5駐車場を拡張しました。45台分の駐車スペースが増え、総駐車台数が646台となりました。

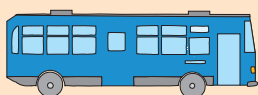
これに関連して、第2駐車場の外来患者さん用区画36台分を車椅子、ベビーカー利用者及び歩行に支障のある方専用とし、通路へ5ヶ所のスロープを設置したことにより、ご利用がしやすくなりました。

なお、第2駐車場の車椅子等のマークが黄色に着色された28台分については、午後から外来患者さんもご利用いただけます。



交通案内

公共交通機関ご利用のとき



市民病院行または中央総合公園行の名鉄バスをご利用ください。

名鉄東岡崎駅発
美合駅発
大樹寺発

の3路線が運行されています。

タクシーで行く



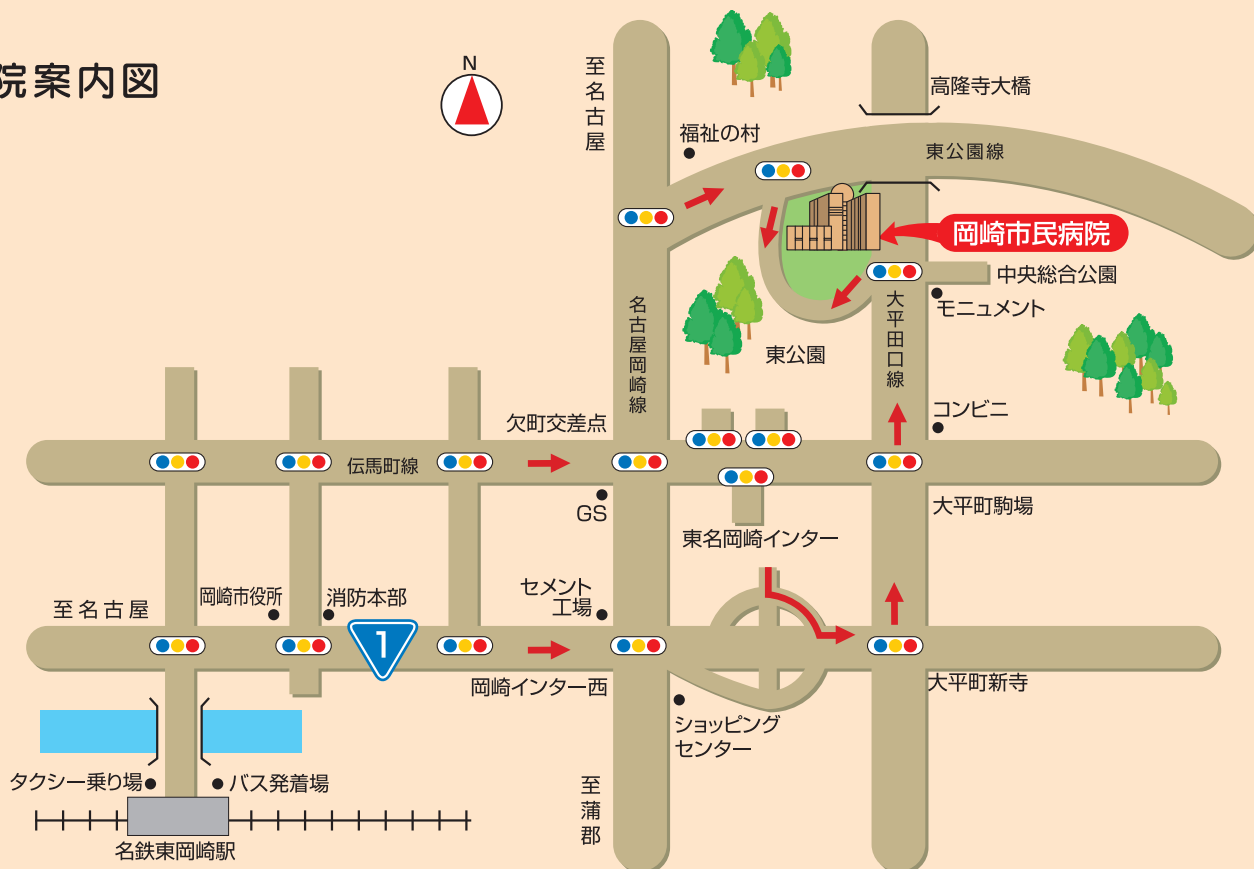
正面玄関付近に乗降場があります。

車で行く



駐車場は第1から第5駐車場まで駐車台数646台を確保しております。
正面玄関に近い駐車場は第1・第2及び第5駐車場です。
第3・第4駐車場ご利用の方は北通路(午前7時30分から午後8時30分まで開放)を利用すると、中央受付及び病棟までスムーズに行くことができます。
なお、第5駐車場は午前7時30分から午後8時30分まで利用できます。

病院案内図



住 所 / 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1 (〒444-8553)
 代表電話・ファックス / TEL(0564)21-8111 FAX(0564)25-2913
 ホームページアドレス / <http://www.okazakihospital.jp/>
 メールアドレス / suggestion.box@okazakihospital.jp